

広島県医療労働組合連合会
執行委員長 八幡 直美 様

2011年9月4日
宮城県医療労働組合連合会
執行委員長 川 名 豊

メッセージ

貴労組の第39回定期大会に連帯のメッセージを送ります。

まず最初に、去る3月11日に発生した東日本大震災の被災に対して、全国のみなさんから寄せられた物心両面にわたる多大なご支援に心から感謝申し上げます。とりわけ、ボランティアで来県された広島のみなさん、本当にありがとうございました。

あれから5カ月が経過しました。大震災は、宮城だけで死者9400人余の尊いのちを奪い、2400人がいまだ行方不明です。復旧の最大の障害になっている瓦礫は、通常の23年分に当たる1800万トンにおよび、撤去で1年、処理で3年以上を要し、復興のためには少なく見積もっても2兆円を超える巨額が必要になると推計されています。

甚大な被害は、医療機関にも及びました。県内では186カ所の医療機関が被災し、気仙沼、南三陸町、石巻、仙台市などの16施設が全壊しました。また9人の医師、45名の看護師も犠牲になりました。

これからの私たちの運動は、医師・看護師・介護職員の大幅増員のたたかいを軸に、職場を失い、家と家族を失い、すべての生活を流されてしまった多くの県民、住民と連帯した復旧と復興のための運動になります。

村井宮城県知事は、県の「震災復興会議」のメンバー12名の委員を選びましたが、県内からは、わずか2名しか選びませんでした。その「計画」策定には野村総研が全面的に関わります。すでに村井知事は、「水産特区」と称して大企業を漁業に参入させ、復興を口実に利潤追求の市場に解放しようとしています。私たちは財界主導の復興ではなく、被災者・住民主体の復興を求めます。

大震災は、地域の医療機関の果たす役割の大切さを証明しました。先の衆議院本会議で、社会保険病院・厚生年金病院の「存続法案」が可決されました。これも、私たちの運動の大きな成果です。

本日の定期大会が、貴労組の団結と運動を、いっそう強める新たなスタートになることを祈念して、メッセージとさせていただきます。